



花で伝えたい思い

フラワーデザイン教室
ラシャンブル ベール主宰
日本フラワーデザイナー協会本部講師
草月指導者連盟会員
インテリアコーディネーター

近藤しょうこ
こんどう

日本フラワーデザイン大賞2008オブジェ部門1位及び東京都知事賞他
2008世界らん展ステージデモンストレーション出演他
WEBサイト『はなどんや』にて『近藤しょうこのうきうき花レシピ』掲載中
ホームページ <http://www.chambre-verte.com>

花との出会い

大学卒業後、慣れない会社員生活でストレスを感じていたころ、ふと立ち寄った青山通りの露天の花屋さんで、花を購入したことがあります。その花を自宅で活けてみようとしたとき、思い通りにいかず、花の本を購入しました。しかし、写真だけではよくわかりません。すぐに『生け花教室』に入門しました。

その後、会社のストレスも忘れるほど花を活けることに夢中になりました。数年経った頃、生け花の先生に『フラワーデザイン』も紹介いただき、両方のお教室に通いはじめました。

日本古来の『生け花』は剣山などを使って、花瓶や花器にいけるもの、外来の『フラワーデザイン』は、主に『スポンジ』を使って花を固定することから、デザインの幅が広いのです。

しばらく、会社帰りや休日のほとんどを『花のおけいこ』に費やし、それも極まったところで『花の流通』の世界も学びたくなりました。そして生花店に転職し、『フローリスト』の道を歩み始めました。

フローリスト時代

最初は、都内大手の老舗生花店にて修行。経験のない私は、花の手入れと接客だけで一年間過ごしました。ここでは、年齢は関係ありません。経験のみが通じる世界です。仕事も先輩といっても当時の私より若いのですが、丁寧には教えてくれません。見て、仕事を盗んで覚える世界です。企業のOJTが当たり前だった私にとって、かなりのカルチャーショックでした。寒いところでの立ち仕事で、また労働時間も不規則で長く、何度辞めたいと思ったことが。ところが、どんなにつらくても続けられたのは、周りに植物があるという職場環境が不思議と助けてくれたからだと思います。

その後、大手の生花店では、『仕入れ→接客→製作→配達』という仕事が多岐化しており、フローリストとしてトータルな仕事ができないことから、いくつかの郊外の生花店でアルバイトとして働きました。

生花店は、場所によって売れる商品や、来店されるお客様も様々で、高級店で大変高価な『胡蝶蘭』を販売したこともあれば、真夏の暑い中、くらくらしながら外でお盆の仏花を販売したこともあります。また、運良く新しいフラワーショップを立ち上げるといことや、チーフとしてお店を運営するという経験もしました。それぞれは、大変つらいこともありましたが、お花を手にしたお客様の喜ばれる顔が一番のやりがいです。そしてこの『フローリストの仕事』が楽しくてなかなか辞められませんでした。年齢が上がるとつれ、色々考えることも出てきました。

まずは、日々お客様を接客していて、日本の一般家庭ではまだまだ普通の生活で絶やさず花を飾るという習慣がないこと、また、デザインに対してこだわりを持ったお客様が少ないので、フローリストの技術レベルがあがらないことなどです。

その一要因は、日本では、欧州のマイスター制度のように、『フロー



平塚のバラ

リスト』が技術職として一般に認められていないことにあると思います。接客、技術、センスが必要で、体力勝負の仕事であるのに、『花の技術職』としての処遇が受けられていないように思います。また、フローリストの半数以上が女性で、せっかく経験を積んだのに結婚出産で、辞めてしまいます。つまりなかなか良い人材が育たないので、今後もこの状況を変えてゆくのは難しいと感じました。しかしちょうど、そんな疑問を抱いていたころ、お店でフラワーデザインを教え始め、レッスン生が仕事で疲れて教室に来て、帰りは出来たお花を持って楽しそうに帰ってゆく姿を見るたびに、『そうだ、ここからなら少しづつ変えられるかもしれない』思ったのです。

フラワーデザイナーとして

その後、独立して『フラワーデザイン教室』の主宰となりました。フラワーデザインの講師の他にも、店舗の装飾やオーダーで花束などの製作も行っています。フローリスト時代と違い、お店に拘束される時間が減ったので、『フラワーデザインコンテスト』にも出品するようになりました。最初は、賞にはほど遠い未熟な作品を出品し、恥ずかしい思いもしました。また、出品に費用もかかり、何度出品しても成果がみられなかったため、『これでためだったら、もう辞めよう』の思いで製作した作品が、なんと入賞してしまったのです。

そして、さらに翌年のコンテストで、運良く部門1位と東京都知事賞もいただくことができ、ようやく『フラワーデザイナー』と名乗れる自信につながりました。

そしてその頃から、イベントでのステージデモンストレーションや、WEBサイトでの『花レシピ』の公開などの仕事も入るようになり、レッスン以外の方にも作品を見ていただける機会も増え、『花を通じて思いを伝えられる』ことを実感しはじめました。



平塚のバラでレッスン

バラの街、平塚。

ご存知の通り、平塚はバラの生産者が多いです。平塚に転居してからそれを知り、私とちょうど同世代の生産者の方々と知り合い、バラを直接注文するようになって驚いたのが、『産直は市場を経由しないので花の痛みもなくフレッシュで長持ちする』ということです。また、イベント活動を共にする機会もあり、生産者もいいバラを作るよう、日々研究努力されていることを知り、『これは応援しないといけない』という気持ちになりました。

つまり、『生産者と消費者をつなぐ』ことも、私の使命であることを改めて実感しはじめました。

そして近年、『食』の世界で言われている『地産地消』を『バラ』でもできないかということで、平塚のバラを使って平塚でレッスンをする機会も増やしています。

今後は、平和の象徴である『花』があふれる国であることを願い、



インテリア空間に装飾

花から得られる『癒し』や『幸福感』を、フラワーデザイナーとして出来るだけ多くの方に伝えられたらいいなと思っています。

そうです、あなたのお部屋に一本の花を！からなのです。